

2022年3月25日

「サプライチェーンの状況に関するアンケート」調査結果

コロナ拡大で打撃を受けるサプライチェーン

新型コロナウイルスの感染拡大は、グローバル化・複雑化した企業のサプライチェーンに多大な影響を与えています。自動車産業では、半導体や東南アジアで生産される部品不足により生産調整が頻発しているほか、感染拡大による労働力不足などで港湾機能が停滞するなど世界的に物流機能が混乱。また、ロシアによるウクライナへの侵攻や米中対立の激化など、原材料や部品調達を特定の国に依存するリスクも高まっており、改めてサプライチェーンのあり方が問われています。

静岡経済研究所（理事長 馬瀬和人）では、県内企業におけるサプライチェーンの実態や課題などを明らかにするため、アンケート調査を実施しましたので、その結果をお知らせします。

※本件の詳細な調査内容は、「調査月報4月号」に掲載

【アンケート調査の概要】

- ◆調査名：サプライチェーンの状況に関するアンケート調査
- ◆調査対象：県内に本社・事業所を置く企業790社
- ◆調査方法：郵送・Web（回答期間：2022年2月9日～2月18日）
- ◆有効回答者数：255社（有効回答率32.3%）
- ◆回答企業属性：

[業種]生活関連型製造業（飲食料品・繊維）6.7%、基礎素材型製造業（パルプ・紙製品、化学製品、金属製品、鉄鋼・非鉄金属、その他）25.9%、加工組立型製造業（一般機器、電気機器、輸送用機器、精密機器）22.7%、建設・住宅15.3%、卸売業18.0%、物流業11.4%

[従業員規模]29人以下22.7%、30～99人44.3%、100～299人23.9%、300人以上9.0%

* 「製造業、建設・住宅、卸売業」向けと、「物流業」向けの2種類のアンケートを実施

** 集計結果は小数点以下第2位を四捨五入して表記しているため、合計が100%にならない場合がある

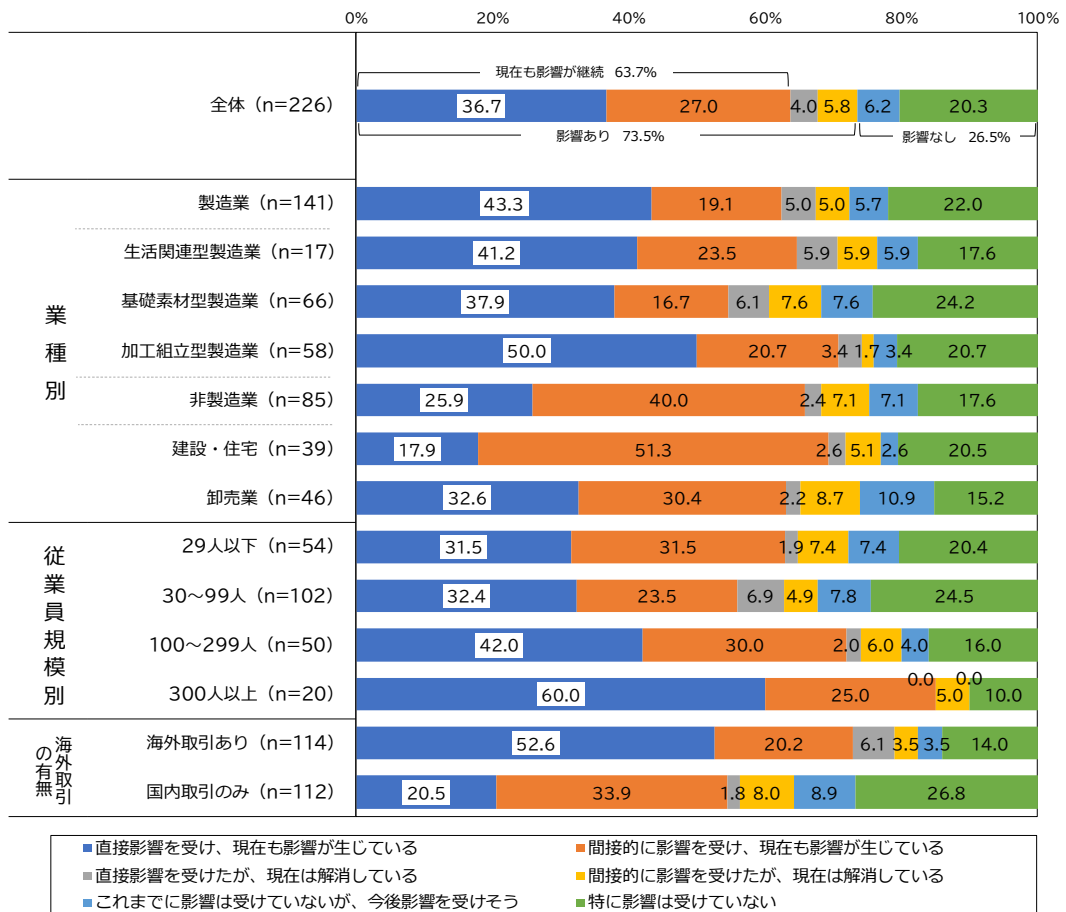
問い合わせ先：主任研究員 大石彰男

1. 県内企業におけるサプライチェーンへの影響

全体の7割以上の企業で影響が発生

- ・2020年のコロナ感染拡大以降、資材や原材料、部品、製品の調達などにおいて、「納期が遅れる」「調達が困難になる」など、サプライチェーンに何らかの影響があったかを尋ねたところ、“影響を受けた”との回答は、合わせて73.5%と7割以上に達したほか、6割以上の企業で現在も影響が続いているとの結果となった（図表1）。
- ・業種別では、輸送機器や電気機器など加工組立型製造業で部品不足による工場休止といった直接的な影響が生じている一方、建設・住宅では、仕入先の納期遅れが自社事業に影響するなど、間接的な影響が目立っている。

図表1 県内企業におけるサプライチェーンへの影響の有無について

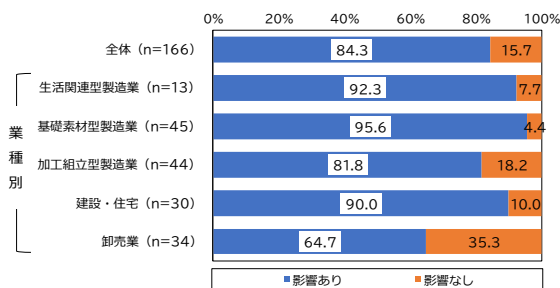


2. サプライチェーンの混乱による価格上昇の影響

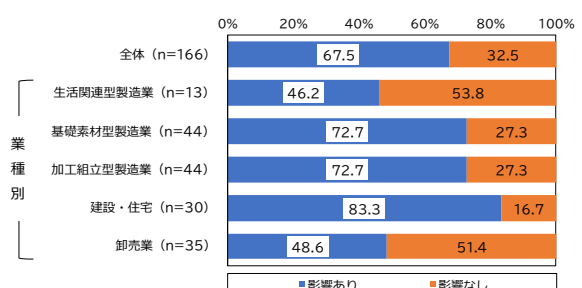
多くの企業で価格上昇の影響を受ける

- ・今般のコロナ禍におけるサプライチェーンの混乱で、国内外を問わず影響を大きく受けたのが、“資材・原材料価格の上昇”（84.3%）や“部品・製品価格の上昇”（67.5%）といった価格の値上がりに関するものだった（**図表2、3**）。
- ・コロナ禍から世界経済が急回復する中で、あらゆる価格が上昇傾向にあり、特に“資材・原材料価格の上昇”については、製造業の多くの業種や建設・住宅で9割以上が影響を受けたと感じている。また、“部品・製品価格の上昇”についても、建設・住宅で8割以上、基礎素材型製造業や加工組立型製造業で7割以上が影響を受けたと感じている。
- ・具体的に影響を受けた品目については、分野別にみると“金属”（延べ107社）が最も多く、“電装品”（同93社）、“素材”（同74社）、“住宅資材”（同73社）が続いた（**図表4**）。

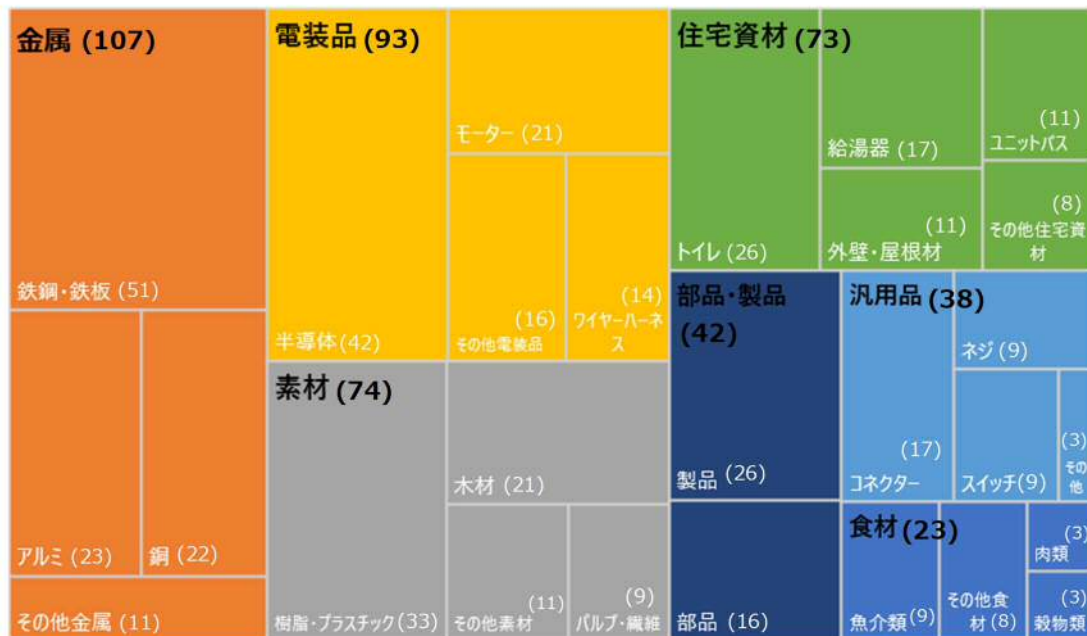
図表2 “資材・原材料価格の影響”における影響割合



図表3 “部品・製品価格の影響”における影響割合



図表4 サプライチェーンの混乱を受けた資材・原材料、部品、製品(複数回答、延べ社数)

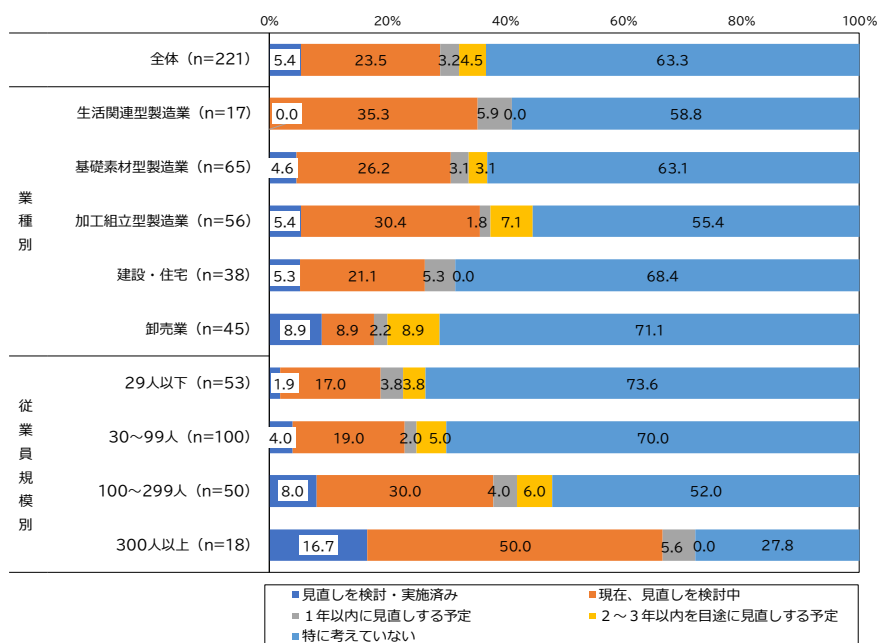


3. サプライチェーンの見直し方針

企業規模や業種により見直し方針に差がみられる

- ・ サプライチェーンの見直しを考えているかを尋ねたところ、“見直しを検討・実施済み”はわずか5.4%にとどまり、“現在、見直しを検討中”（23.5%）こそ2割に届いたものの、6割以上が“特に考えていない”（63.3%）との結果となった（図表5）。
- ・ 業種別にみると、製造業では“見直しを検討・実施済み”と“現在、見直しを検討中”が合わせて3割超を占めるものの、卸売業では2割を切るなど差がみられる。また、従業員規模別では、300人以上の企業で“見直しを検討・実施済み”と“現在、見直しを検討中”が合わせて66.7%に達するなど、従業員規模が大きいほど取組みに積極的な姿勢が伺える。

図表5 サプライチェーンの見直しや再構築に向けた方針



4. 総括

VUCAの時代に対応したサプライチェーンの構築を

- ・ コロナ禍でのサプライチェーンの混乱は県内産業の広い範囲に及んでいる。直近では、ロシアのウクライナ侵攻により、状況が一層悪化する可能性もある。
- ・ サプライチェーンの再構築は、決してたやすいものではないが、わが国では、主力の自動車産業を中心にさまざまな危機を乗り越えてきた実績がある。そうしたノウハウや今回の経験を糧に、VUCAともいわれる将来的な予測が困難な時代に対応した柔軟なサプライチェーンの構築が求められている。